



環境報告書

2026

TX つくばエクスプレス

首都圏新都市鉄道株式会社



TX 環境報告書 2026

ENVIRONMENTAL REPORT



2025年度 主なデータ 3P

2025年度トピックス 4P



低炭素社会の実現に向けた取組み 5P



資源循環型社会の実現に向けた取組み . . . 8P



沿線の環境保全 9P



環境にやさしいライフスタイルの推進 . . 11P



社員の取組み 12P



環境コミュニケーション活動 13P

環境に関する基本的な指針

- お客様に安心してご利用いただけるよう安全・安定輸送の徹底に全力を尽くし、環境にやさしい公共交通機関である鉄道の利用促進を図ります。
- 沿線の自治体や住民の皆様との環境コミュニケーション活動を積極的に展開します。
- 低炭素社会を実現し地球温暖化を防止するため、エネルギーの効率的利用を推進します。
- 沿線環境を保全するため、騒音・振動対策を確実に実施し、沿線の皆様と共生します。
- 資源循環型社会の実現をめざして、資源のリデュース、リユース、リサイクル、リフューズ、リペアの5Rに努めます。
- 環境に関する法令を遵守し、環境汚染を防止します。
- 役員及び社員の環境保全意識の向上を図り、一人ひとりが環境問題に対して、積極的に取り組みます。

ご挨拶

当社は、つくばエクスプレス(TX)を運営する公共交通機関として、安全輸送を最大の使命に掲げるとともに、沿線地域の皆様とともに地域の発展に貢献すべく、日々の事業活動に努めております。

当社が2005年に開業して以来、20年という歳月の中で、気候変動に伴う記録的な猛暑や豪雨・台風の激甚化、自然災害の頻発など環境を取り巻く課題は一層深刻さを増しています。こうした状況を受け、当社は環境問題に対する取組みをより一層重要な経営課題として認識しております。

そのような中、当社では、環境にやさしい公共交通機関である鉄道の利用促進に加えて、環境配慮型車両の導入や回生エネルギーの有効活用などに取り組んでまいりました。また、2008年度から「環境報告書」を作成し、ステークホルダーの皆様当社の環境活動や社会貢献活動を報告するとともに、自主的な環境情報開示を行っています。

2025年度は、傘のシェアリングサービス「アイカサ」を運営する株式会社Nature Innovation Groupが取り組む「2030年使い捨て傘ゼロプロジェクト」に参画し、持続可能な社会の実現に向け、環境問題への関心をステークホルダーに深めていただく取組みを行いました。

また、2025年度に策定した「長期ビジョン2050」では、「環境にやさしい持続可能な社会への貢献」を取組みの方向性の一つとして掲げています。その中でも、「鉄道カーボンニュートラルへの対応」や「カーボンニュートラル実現に向けた地域社会の取組みへの貢献」を推進し、環境と経済が調和した持続可能な社会の実現を目指しています。

この実現に向けて当社は、これからも安全・安定輸送を堅持しながら、地域密着型鉄道として沿線の自治体、企業、教育・研究機関、地域コミュニティ等の皆様との連携(TXコラボリング)を通じて、沿線価値の向上と持続可能な地域社会の形成に貢献してまいります。皆様のご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

首都圏新都市鉄道株式会社

代表取締役社長

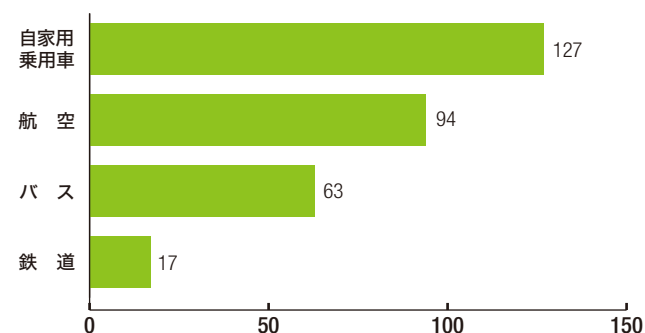
渡邊 良





2025年度 主なデータ

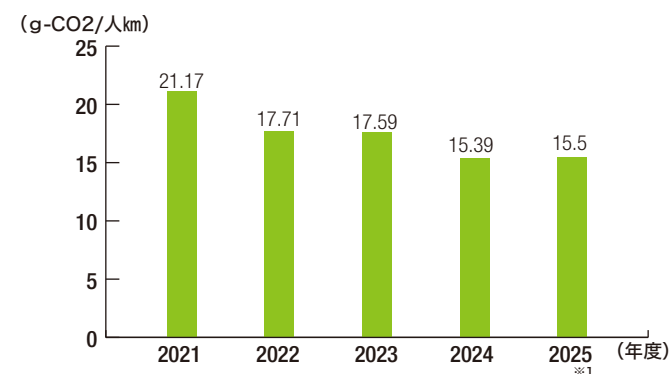
輸送量当たりのCO₂排出量(旅客)(2024年度)



※出典 国土交通省資料 CO₂排出原単位[g-CO₂/人km](2024年度)

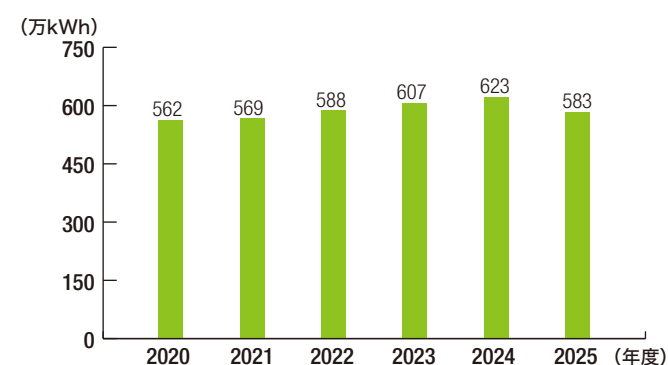
鉄道は、少ないエネルギーで多くのお客様を輸送できる、環境にやさしい輸送機関です。

TXの輸送量当たりのCO₂排出量



※1「2025年度のCO₂排出係数」については、速報値で算出しています。
2021年度は新型コロナウイルスの影響による乗車人員減少のため、増加しています。

電力会社への電力供給量



アイカサ利用によるCO₂削減量



※アイカサ1回の利用で、傘を1本購入した時と比べ692gのCO₂削減につながる。

その他実績

2025年度環境への取組み

清掃ボランティア	実績回数	13回
	参加人数	71人
環境教育	受講人数	788名
グリーン電力	購入量	1,200kWh
本社 使用電力の非化石証書	非化石価値	241,084kWh



2025年度 トピックス

アイカサ事業との連携について ~アイカサレンタルスポット増設と「2030年使い捨て傘ゼロプロジェクト」への参画~

当社では2024年より、株式会社Nature Innovation Groupが運営する傘のシェアリングサービス「アイカサ」のレンタルスポットを全駅に設置しております。

2025年5月22日(木)には、アイカサのレンタルスポットを23ヶ所増設し、アイカサの利用拡大に寄与することで、さらなる環境負荷低減に貢献しております。(現在、当社線20駅計42ヶ所でアイカサが利用可能)

また、株式会社Nature Innovation Groupが持続可能な社会の実現に向けて取り組む「2030年使い捨て傘ゼロプロジェクト」※に2025年度より参画いたしました。

本プロジェクトの参画に伴い、つくばエクスプレスオリジナルデザイン傘を300本作成し、2025年8月1日(金)より提供を開始しました。

オリジナルデザイン傘には、東京・埼玉・千葉・茨城の1都3県を結ぶTX沿線のシンボリックなスポットを散りばめることで、当社線への親しみやすさを感じていただきながら、身近な「傘」を通じた環境啓蒙活動推進に貢献しております。

※「2030年使い捨て傘ゼロプロジェクト」とは、株式会社Nature Innovation Groupが大手企業などと連携し、SDGsの達成期限である2030年までに、日本で年間約8000万本消費される使い捨て傘の廃棄をゼロを目指すことを目指したプロジェクト。

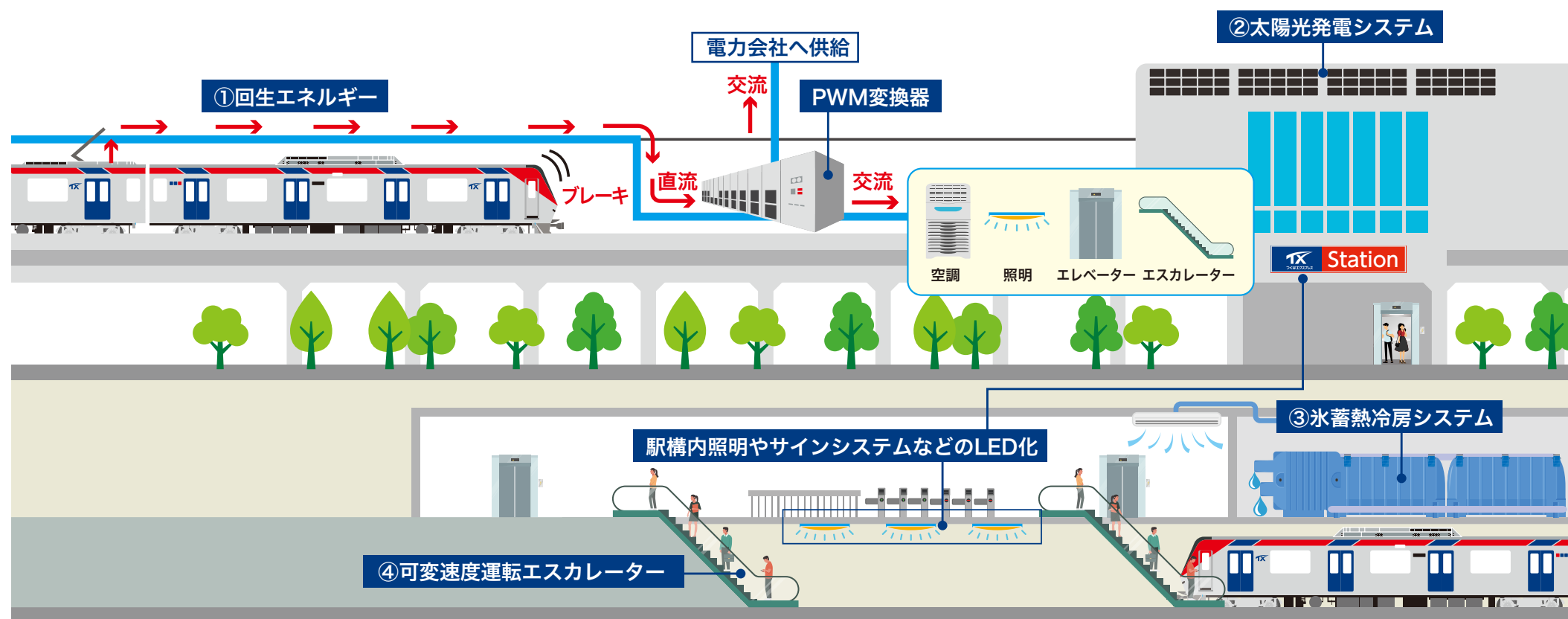
オリジナルデザインの傘の制作をはじめ、従業員に対してアイカサの利用を無償で提供するなど、アイカサと共同で使い捨て傘ゼロを目指す取り組みを行っている。

アイカサ公式HP <https://www.i-kasa.com/>





低炭素社会の実現に向けた取り組み



駅構内イメージ図

回生エネルギー(図①)

列車がブレーキをかけた際、モーターが発電機となり生み出した電力を回生電力といいます。回生電力は、他の列車の走行に使用するほか、鉄道用として初めて「PWM変換器^{※1}」を採用したことにより、駅の照明やエレベーター、エスカレーター、冷暖房の動力・電源としても再利用しています。

さらに、走行中の他の列車や駅設備等で使用しても余る電力を、電力会社へ供給し、回生エネルギーの有効活用に努めています。

※1 PWM変換器

茨城県の石岡市に気象庁の地磁気観測所があります。観測所に近い茨城県守谷市にTXの車両基地があるため、この観測に影響を与えることのないよう、TXの変電所には鉄道用としては初めてとなる、パルス幅変調方式の電力変換装置(PWM変換器)を採用しています。このPWM変換器により、列車がブレーキをかけたときに発生する回生電力を、電圧や周波数が一定している質の良い電力に変換させることができます。

空調熱源設備(図③)

秋葉原駅に「氷蓄熱冷房システム」を導入し、深夜電力を活用した夜間に氷をつくり、その氷を電力消費量が多くなる昼間に解氷し、冷房に使用しています。

このほか、つくば駅では「地域冷暖房設備」を導入し、地域プラントで作られた冷水を、パイプで各建物へ供給される地域の環境施策に協力しています。



秋葉原駅の氷蓄熱槽

太陽光発電システム(図②)

流山おおたかの森駅の屋根上に太陽光パネルを設置し、発電した電力をホーム照明等に使用するほか、携帯電話充電器を設置し、お客様へ無料で提供しています。

場 所: 上りホーム

面 積: 約62㎡

出力量: 10kW



流山おおたかの森駅の太陽光パネル

可変速度運転エスカレーター(図④)

一部の駅を除き、運行速度が変更可能な可変速度運転制御式を採用しています。

あらかじめ設定した時間帯や利用者の有無により運転速度を切り替え、省エネルギー化を図っています。



秋葉原駅の可変速度運転エスカレーター



低炭素社会の実現に向けた取り組み

LED照明

鉄道施設の照明を、消費電力の少ないLED照明に交換しています。

今後も低炭素社会の実現に向けて、鉄道施設のLED化を進めてまいります。

※1 2025年度は、北千住駅、八潮駅、三郷中央駅、流山セントラルパーク駅、みらい平駅、みどりの駅、万博記念公園駅、研究学園駅、つくば駅の計9駅を実施

これまでの実績

LED照明変更箇所	実施時期
車両34編成	2013年度～2015年度完了
ホーム照明20駅	2013年度～2017年度完了
営業トンネル	2016年度～2019年度完了
総合基地構内	2017年度～2019年度完了
駅コンコース照明20駅	2018年度～2021年度完了
総合基地構内工場・検車庫他整備建屋照明LED化	2020年度～2021年度完了
駅非常用照明	2021年度～2022年度完了
駅事務室内(※1)	2023年度～2025年度完了

環境配慮型車両

TXの車両は、全て軽量化のため車体構体にアルミニウム合金を採用し、電力回生ブレーキにより、省エネルギー性の高い環境配慮型車両にしています。

さらに、電力損失の少ないVVVFインバータ制御装置を採用しているほか、車内灯はLED照明に変更し、消費電力を低減しています。

また、車体をはじめ座席の詰め物にいたるまで、リサイクル性の高い素材を使用するとともに、座席の表地の一部はリサイクル材を使用しています。

TX-3000系では、上記に加えて、新型のSiC素子を採用した制御装置を用いることにより省エネルギー化を図っています。このほか、前灯のLED化や1編成に2台搭載されている補助電源装置を、電力消費が少ない時には1台休止させる休止運転制御を採用しています。



TX-3000系

つくば市脱炭素先行地域づくり事業への参画

2023年11月、つくば市が環境省事業の脱炭素先行地域に選定されたことに伴い、2024年7月1日に「つくば市脱炭素先行地域づくり事業の実施に関する覚書」をつくば市と締結しました。

当社としても、2030年までに該当エリアにあるつくば駅の使用電力についてCO2排出実質ゼロにする取り組みを実施し、地域における脱炭素の取り組みに参画してまいります。



資源循環型社会の実現に向けた取り組み

車体の長寿命化

車体更新場において、経年劣化で傷んだ車両の屋根や床、各機器等の補修や交換を行い、長期に渡り安全に運行できるよう維持し、長寿命化を図っています。



車体更新場内

排水の再利用

車両および台車の洗浄水は、排水中和装置により中水化処理し、再び車両洗浄水として再利用しています。



排水処理装置

制服のリサイクル

TXの制服はマテリアルリサイクル方式(※1)を採用しています。

ペットボトルを溶解した糸から縫合した素材(生地)を使用し製作されています。さらに、古くなった制服は、すべて自動車部品(シートの中綿)として再資源化を図っています。

※1 物から物へと再利用すること



運輸制服・技術制服

海洋プラスチックを活用したノベルティ

国内で回収された海洋プラスチックごみや使い捨てコンタクトレンズの空ケースを再利用し、環境に配慮したボールペンを製作するなど、地球環境への負荷を軽減し、持続可能な未来の実現に貢献しています。



海洋プラスチックを活用したボールペン



沿線の環境保全

完全立体交差化

路線の全長58.3kmの全線に渡り、トンネル・高架橋・橋りょう等により、踏切のない完全立体交差を実現しています。

踏切が原因となる道路渋滞の発生を防ぎ、自動車のアイドリング等による大気汚染やCO₂の発生を防ぐ環境にやさしい構造となっています。



流山セントラルパーク駅付近の立体交差

防音壁

TXの地上部分は、一部の橋りょうなどを除いた区間において、標準高さ2mの防音壁を設置し、騒音の拡散を抑制しています。

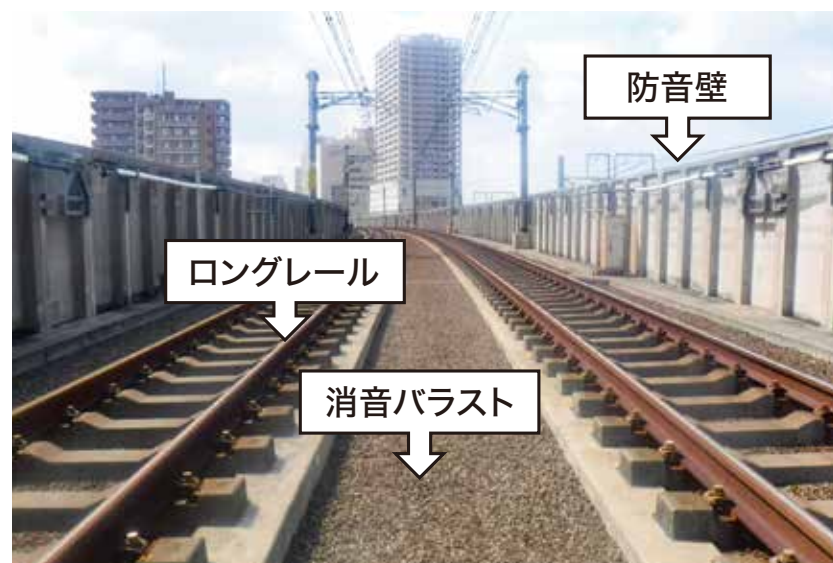
ロングレール

ロングレールは標準レール(25m)を溶接によって、200m以上継ぎ目のないレールにします。これにより、列車走行時の振動や騒音抑制に寄与しています。

最も長いレールは、守谷〜つくば間に敷設され、長さは18.2kmにもなります。

消音バラスト

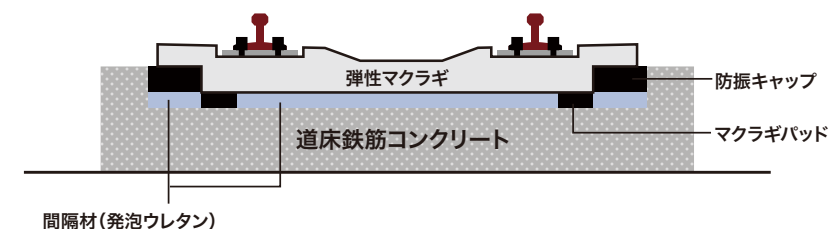
TXでは、騒音低減のため、高架橋軌道内に消音バラストを散布しています。



弾性マクラギ直結軌道

本線の軌道構造は、弾性マクラギ直結軌道を基本としています。軌きょう(レールとマクラギを組み合わせたもの)を直接道床コンクリートで固定する構造です。

道床コンクリートとマクラギの間にはマクラギパッド(防振ゴム)や防振キャップを採用し、騒音・振動の低減を図っています。

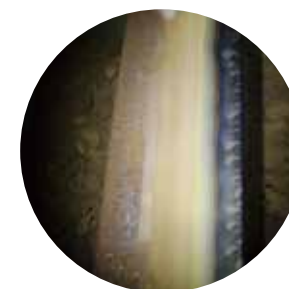


直結軌道断面図

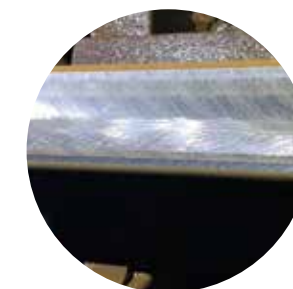
レールの保全

列車が繰り返し走行することにより、レールの頭面は微小な凸凹が発生し、乗り心地の悪化や騒音・振動が発生します。

定期的にレールを削正することで、車輪とレールの接触状態を良好に保ち、騒音の低減や乗り心地の改善を行っています。



傷んだレール



削正後のレール

踏面フラット検知装置

守谷駅と柏たなか駅間の上り線に車輪の「フラット検出装置」を設置し、車両走行に伴い車輪踏面に発生するフラット(車輪の摩滅による平面)等の擦傷を早期に発見しています。

検出されたフラット等は、早期に車輪旋盤装置で削正し、騒音・振動の低減を図っています。



フラット検出装置のセンサー



環境にやさしいライフスタイルの推進

八潮PAを活用したレール&高速バスライド

国土交通省やバス事業者、首都高速道路(株)と連携し、茨城方面から東京方面へ向かう高速バスの利用者が、首都高の八潮パーキングエリアで降車し、接近する八潮駅で列車に乗り継いで都心へ向かう、レール&高速バスライドを実施しています。

高速バスの利用者が渋滞を避けて都心へ向かうことが可能となり、同時に自家用車から高速バスへ交通手段の切り換えも促進され、自家用車の排気ガス削減が期待できます。

2025年度は約2万8千人の方がご利用されており、本サービス開始以降としては、累計で約66.7万人がご利用になっています。

宅配便ロッカーの設置

Packcity Japan株式会社が提供するオープン型宅配便ロッカー、「PUDO(プドー)ステーション」を主な駅に設置しています。

駅の利便性向上を図るとともに、宅配便の再配達問題などの社会的課題の解決や、CO₂排出による環境負荷の低減を図っています。



南流山駅のオープン型宅配便ロッカー

駐輪場の整備

駅から比較的近いところにお住まいの方に、自動車ではなく、CO₂を排出せず環境負荷の少ない自転車をご利用頂けるよう、高架下用地にて駐輪場を整備しています。



社員の取組み

TXカレンダーにおける環境配慮

一般販売をしているカレンダーは、高沸点石油系溶剤(VOC成分)を含まない「Non-VOCインキ」を使用しているほか、有害な廃液を出さない「水なし印刷」を採用しています。

また、排出するCO₂を削減することにより地球環境保護、SDGsに貢献しています。



TXカレンダー2025

食品ロス^(※1)の低減

当社で備蓄している防災備品のうち、賞味期限が近い非常食について、フードバンク^(※2)を通じて、社会福祉施設や団体に無償で提供し、食品ロスの低減に寄与しています。

※1 食品ロスとは、まだ食べられるのに廃棄される食品であり、日本全体で約464万トン/年発生と推計(2023年度)

※2 フードバンクとは、食べられるのに様々な理由で廃棄される食品を食べ物に困っている施設や人に届ける活動

沿線地域のクリーンアップ活動への参加

千代田区が推進する合同パトロールや柏の葉アーバンデザインセンター(UDCK)が主催する清掃活動等へ参加しています。

また、国土交通省が行っている「ボランティア・サポート・プログラム」^(※1)へ参加し、本社周辺を含めた千代田区内の国道4号線歩道の美化清掃活動等を実施しています。

※1 「ボランティア・サポート・プログラム」とは、国道の美化活動を行う団体を国と市町村が協力して支援する制度です。企業などが実施団体となり国道の管理者(国)、協力者(市区)の3者間で協定を結び、国道の清掃や緑化等の活動を行い、国は活動の支援、市区はごみの処理などを行います。



第二大場川清掃開会式



国道4号線看板



環境コミュニケーション活動

学ぼう!TX講座

当社の環境への取組みの理解を深めていただくため、沿線地域の小学生を対象とした「学ぼう!TX講座」を開催しています。

本講座は、2016年度から開始し、自治体や企業、大学と連携してきました。

TX講座時における列車の運行に関しては、使用電力相当分のグリーン電力証書(※1)を購入しており、二酸化炭素の排出抑制に貢献しております。

※1 太陽光、風力、バイオマス(生物資源)等の環境負荷が少ない自然エネルギーにより発電された電力



TX社員による講義の様子



専用列車の車内の様子

守谷野鳥のみち

貴重な野鳥の観察ができる「守谷野鳥のみち」は、守谷市観光協会(市民ボランティアで構成)が守谷市の支援と協働により整備した遊歩道で、当社も2017年度より自然環境保全活動の一環として協力しています。

2025年度は、当社から17名が参加し、遊歩(木)道の防腐剤塗装作業を実施しました。

実施日:2025年11月11日

活動団体:守谷市、守谷市観光協会、
首都圏新都市鉄道(株)



防腐剤塗装の様子



TX つくばエクスプレス

首都圏新都市鉄道株式会社 経営企画部

〒101-0022 東京都千代田区神田練堀町85番地 JEBL秋葉原スクエア

TXコールセンター 0570-000-298(通年9時～19時)

WEBサイト <https://www.mir.co.jp/>